



御 在 所 の 風



志布志市立田之浦小学校
学校だより 文責：榎 宏三
令和2年11月23日発行

教育目標 「心豊かで、たくましい体もち、自ら学ぶ『田之浦の子』を育成する」
校 訓 「やさしく（キラキラ） かしく（ハキハキ） たくましく（キビキビ）」
めざす子どもの姿 「思いやりの心もち、相手を尊重できる子」
「自ら学び、考え、粘り強く学習を続ける子」「命の大切さを知り、自ら鍛える子」



校長室より

思いやりの心をもつ子どもたちに！！

～ 「やる気」のスイッチ ～

校長 榎 宏三

朝晩の冷え込みが厳しい季節となりました。早いもので令和2年もあと1か月となりました。12月は、2学期のまとめの時期です。子どもたち一人一人の頑張りを見届け、前向きに取り組もうとする意欲を引き出すような学期末にしたいと思います。



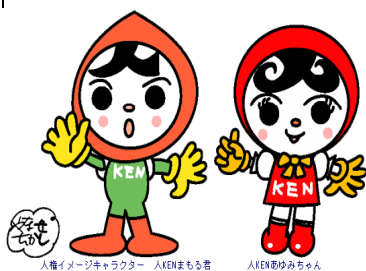
さて、本校では、これまでも子どもたちの自己肯定感を高めることに取り組んできました。それは、何事に対しても自分に自信をもってこれからの世の中を生き抜いてほしいとの願いからです。「早くしなさい」「ちゃんとしなさい」「勉強しなさい」この言葉は、子どもの自己肯定感を破壊する一番の呪いの言葉だそうです。この言葉を言われるたびに、子どもたちは、「自分はダメなんだ」という気持ちに陥りその結果、自己肯定感が低下していき、自分に自信がもてず、失敗を恐れ、何に対しても前向きに取り組めなくなるそうです。

学力も同様に何事も「自発的」にそして「前向き」に取り組むことによって勉強等も楽しく取り組めるようになります。しかし、常に「強制」されていると心がマイナスの状態になり、やる気のスイッチはいつまでたっても入っていきません。先の呪いの言葉を止め、子どもの自己肯定感を高めるための「魔法の言葉」を使うようになるとプラスの方向に向かいます。「魔法の言葉」とは「褒める」「認める」「信頼する」などプラス面に意識をフォーカスする言葉です。これらで心が満たされた子どもたちは自己肯定感が高まり、自分を信頼することができます。物事を肯定的に捉えるようになるので何事にも前向きになり結果、勉強等にも結果が伴ってきます。

ですから、「頑張れ！頑張れ！」という言葉よりも「頑張っているね」という言葉により、認められているという意識が生まれてきます。これらの言葉を継続して言われている子どもは、尊重されていることを実感することができます。このように子どもたちの心を上向きにすることで「やる気」のスイッチに繋がっていくと思っています。

我が国では、毎年12月10日（4日～10日）を最終日とする一週間を人権週間と定めています。毎年、いろいろな場で人権、いじめについても子どもたちに話をしてきました。顔立ち、頭髪、体型、肌の色、あだ名、障がいがあることなどで相手が嫌がることを言ったり、仲間はずれにしたりしてはいけないことを今後も繰り返し話していきます。

ご家庭でも、この機会にお子様と人権について話し合ってみてください。



人権イメージキャラクター 人KENまる君

人KENあゆみちゃん